

ペット葬儀開拓事業に関する構築

—動物霊園管理の経営戦略構築を目指して—

氏 名 大西 克昌

指導教員 王 効平

要 旨

本研究は葬儀社の資本をもとにペット葬ビジネスに新規参入する戦略を立案することを目的としている。テーマ設定の背景としては、これまでの葬儀業界は斎場さえ建設すれば運営と利潤の追求は容易であるという認識であったが、新型コロナウイルスの拡大による影響から、葬儀の小規模化が加速したことで、葬儀社以外のビジネスでの売上を確保するための収益の柱をたてるため、葬儀と関連性のある新事業への参入を検討する必要性に迫られている。ペットビジネスはコロナの影響を受けずに拡大傾向にあり、また、ペットブームにより、犬猫以外の様々なエキゾチックアニマルが販売されるようになり、ペットと人間の関係は身近になってきているため、有望な事業分野と考えられる。さらに、経営に必要な資源、ヒト・モノ・カネの三つを既に得ているというアドバンテージを活かしながら、ペット葬ビジネスを一つの収益の柱として展開できるのは、自社の強みであることが挙げられる。

方法論は以下の通りである。人間の葬儀とペット葬、それぞれの業界の分析を踏まえた経営戦略の立案を研究のフレームワークとする。実証方法としては、実際のペット霊園事業者の運営方法をヒアリングと視察をして、リアルなペット葬の現状と経営を直接認識すること、これまでのビジネススクールで学んだ知識と、実際のペット葬の現場に赴いての分析を進めていくことで、理論と実践の融合を元にペット葬新規参入ケースを検討していくこととしている。考察を通じて、他県のペット霊園では人間の葬儀と変わらない内容のプランを販売していることから、将来的なペット葬の可能性を感じた。ペット葬の市場はまだ参入の余地があることや、ローリスクで運営できる方法があることを発見できた。

論文の構成は下記通りである。第一章では葬儀と葬儀業界、自身の会社についてと経営戦略とそれに用いるフレームワークについての考えなどを先行研究の整理をしながら進めた。第二章ではペットビジネスの市場を分析するとともに、ペットビジネスの運営形態についての整理、そして、福岡県内でペット霊園を実際に運営する業者を二社選定して、ヒアリングと視察の内容をまとめた。第三章では、第一章のフレームワークと第二章のヒアリング結果をもとに、新規参入する際のケースを考察して、最終的な戦略案をまとめた。